
Panasonic NPOサポートファンド
2011年子ども分野助成事業 成果報告会

障害児やサポートの必要な 子どもたちのキャリア教育推進事業

NPO法人シンフォニーネット
(協働 : 下関おしごとクラブの会)

キャパシティビルディングの

背景

(N)シンフォニーネット設立のルーツ

(支援が必要な子どもたちの)居場所づくり

「あそび」(公園など) → (成長) → 「しごと」(民間企業など)

目的

- ① 「しごと観」・ (生きていくために必要な)「自信」 の醸成
- ② 「あたらしい自分」 の発見
- ③ 「産・官・学のネットワーク」 づくり

目標

成人後の「居場所」における
安心・安全を構築すること

実施概要(下関おしごとクラブ)①

学校との連携

保護者のサポート



週1回・1時間だけ
だから、ボクにも
できるよ!



心強い
おしごとサポーター



企業の協力による
おしごと体験

実施概要(下関おしごとクラブ)② (山口県下関市での取り組み内容(H23年度))

- ◇ 対象
市内在住の中・高生(総合(特別)支援学校・公立中学校の特殊学級在学)
- ◇ 主たる活動内容
対象生徒による、市内事業所等における就業(おしごと)体験
- ◇ 期間
初回体験時より6ヵ月 (毎週1回・1時間)
- ◇ 事務局実施事項
 - ・ 対象生徒の選考(学校・保護者との調整)
 - ・ 受入企業の選定・調整
 - ・ おしごとサポーター(地元ボランティア)の募集・選考
 - ・ 実施期間中の巡回・状況確認(受入企業との連携、安全確認)
 - ・ 保護者、おしごとサポーター、教諭からのヒアリング(有効性の評価として)
 - ・ 月例委員会の開催(行政との連携)
 - ・ その他必要事項
 - ◆ 保障等
 - ・ 損害保険加入
 - ・ おしごとサポーターへ交通費(1回300円)支給
 - ・ これらの用途その他必要経費として、900円/回を保護者より徴収

実施概要(キャリア教育推進事業) (山口県下関市での取り組み内容(H23年度))

- ◇ 対象 市内在学の障害児童・学生及びサポートの必要な児童・学生とその家族
- ◇ 主たる活動内容
働く先輩や企業の雇用担当者との交流会を開催する。
小学校、中学校在籍の保護者(総合支援学校の小学部・中学部含む)へ向け、障害児のキャリア教育の啓発活動を行う。
- ◇ 期間
平成22年4月～平成23年3月
- ◇ 事務局実施事項
 - ・下関総合支援学校と協力して、特例子会社の元社長の講演会を保護者向けに開催した。(将来、働くことに見通しを立てられるように支援する)
 - ・下関市内の対象生徒(中学生以上)を集め就職している企業と卒業生を招いて行う「ようこそ先輩」事業を学校と協働する。(働く様子のVTR撮影を先生と手分けして行う)
 - ・「下関おしごとクラブ報告会」や上記集いの後、メンバーが会場に残り個別にご家族の「支援や進路」についての相談を受け付ける。
「鉄は熱いうちに打て」→早期に将来に対する見通しを持てる家族になる。

「なりたい自分」になるための自信

子ども

わが子の可能性
親としての挑戦意欲

保護者

希望進路実現に向けた企業との
つながり

学校

- ① 地域生活・地域就労支援における
ステークホルダー・ダイアログ実現の一助となった。
- ② それぞれの立場で「いま必要な」あるいは「今後必要となる」**力**を見つけ、そして育むことができた。

障害者雇用への
理解と実践

企業

「もしも」に備えた
「ご近所力」の養成

自治体・地域

下関おしごとクラブ 成果

(山口県下関市での取り組み内容(H23年度))

- ◇ 「下関おしごとクラブ」のウワサや教育関係や企業などの関心が高まる中、「障害児の親の会」の認知度だった会が「人づくり」や「街づくり」と協働出来る存在であるということを地域の人たちに理解してもらった。
- ◇ 実際に即戦力で障害者が働いている姿をVTRで保護者に見てもらい、その後の本人への質疑応答で、やはり「知的障害者」であるという事実を知ること、「障害者でも働ける」ということを直接わかる機会があった。保護者の方に、「我が子の就職をあきらめない」という気持ちが生まれた。
- ◇ 「障害者福祉」の枠組を超えた多種多様な方々との繋がりが生まれた。「下関おしごとクラブ」だけではなく、啓発活動なども「街づくり」「人づくり」「地域防災」といった立場の方々と協働でつくりあげていくきっかけとなった。

① より大きな輪をめざして

「新しい仲間を増やすんだ！」

という意識をもって

② 危機管理意識を高めるためのトレーニング

「『想定外』という言葉はキライです！」

と胸を張って言えるように

③ 中・長期的視野での活動体制の確立

**「あの～去年までやってた、おしごと体験のアレ、
なんだったっけ？」**

と、言われないうちに…

下関おしごとクラブの会

事務局 NPO法人シンフォニーネット

委 員 下関市
障害者支援課 商工振興課

山口県立下関総合支援学校

社会福祉法人 下関市民生事業助成会
なごみの里 障害者就労・生活支援センター

合田燃料機器株式会社

アロー印刷株式会社

シンフォニーネット 組織基盤強化 課題

- ◇ 将来的には、校区のPTAや自治会が主体で「おしごとクラブ」を運営してもらえるような仕組みづくり。
- ◇ 行政や教育現場にある「縦割り」の間を強く取り持つための中間支援のネットワークを市民活動へ落とし込む作業
 - ・「下関おしごとクラブ」の委員会メンバーを増やす。
 - ・アートや音楽、映画などの楽しいことと一緒に自閉症・発達障害に関する啓発活動を街の人を巻き込みながら楽しく行う仕掛けづくりを考える。

今後の取り組み（下関おしごとクラブ）

① まずは2年目

順調なスタートといえる1年目でしたが、これからも継続して取り組んでいくためには「足踏み」をしているわけにもいかず、常に「前進」を意識していかなばなりません。

② 学校・企業・地域と、より一層のつながりを

そのためにも、今まで以上に学校や企業、地域とのコミュニケーションを密にしていく必要があります。特に受け入れ先となる企業の新規開拓に重点をおき、有効性の高い情報提供のあり方（広報活動）を企画・実行します。

③ 「わがまち」らしさを

また、2年目からは「下関バージョン」を構築していくことも視野に入れていきます。まだまだ他所事例を参考にする段階ではありますが、必ず「わがまち下関」ならではの方法にカスタマイズして取り入れます。それが、長く続けていくうえで重要であることを、我々はこれまでの経験で学びました。ここでは行政とのコミュニケーションも大切になってくるでしょう。

④ 「応用」への挑戦

引き続き、支援が必要な子どもたちへの、将来を見据えたキャリアデザインプログラムとしてのスタンスは変わりませんが、すでに一部教育関係者からは、「障害の有無に関わらずできないか」との声も出ています。キャリア教育や地方自治体が抱える「18歳人口の都市圏への流出」問題の改善策にも応用できるものかどうか、少しずつでも研究してみたいと思います。

組織基盤強化今後の取り組み
シンフォニーネット

- ①会員のニーズに沿った家族支援事業の運営
- ②「障害者が働く」ということが当り前の街づくりと、
親の意識改革(早期のペアレント・トレーニングの実施)
- ③障害者福祉の世界を超えたネットワークの構築